

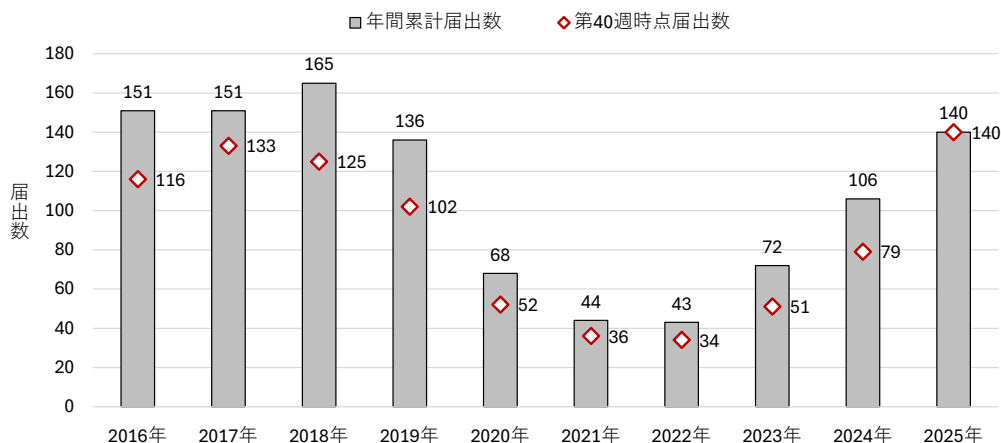
【今週の注目疾患】

《侵襲性肺炎球菌感染症》

2025年第40週に県内医療機関から1例の届出があり、本年の累計は140例となった。

第40週時点における届出数としては直近10年間で最も多い（図1）ことから、今後の発生動向に注意が必要である。

図1：2016年から2025年の県内の侵襲性肺炎球菌感染症の診断年別届出数
（2025年第40週時点）



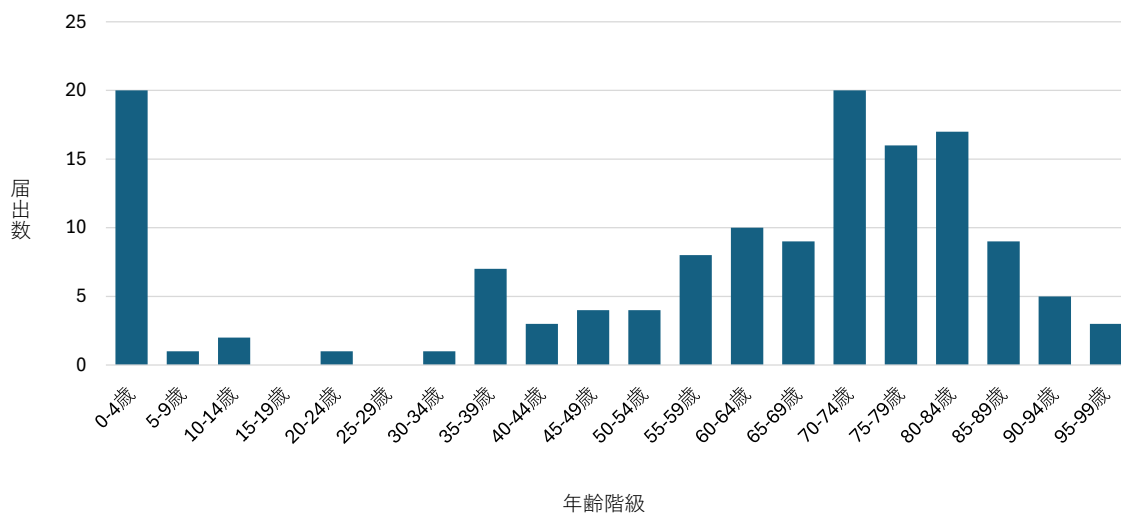
本年に届出のあった140例の概要は以下のとおり。

性別では、男性が81例（58%）、女性が59例（42%）であった。

年齢階級別では、0～4歳及び70～74歳が各20例（各14%）、80～84歳が17例（12%）、75～79歳が16例（11%）であった（図2）。

ワクチン接種歴については、65歳以上79例のうち、接種歴不明が56例（71%）、接種歴なしが15例（19%）であった。

図2：2025年の県内の侵襲性肺炎球菌感染症140例の年齢群別届出数（2025年第40週時点）



肺炎は、2023年及び2024年の本邦における死亡原因の第5位である¹⁾。また、成人の肺炎のうち、約2割から3割は肺炎球菌が原因と考えられている²⁾。

肺炎球菌は、乳幼児の鼻咽頭において高頻度に検出され、小児や成人に中耳炎、副鼻腔炎や菌血症を伴わない肺炎などの非侵襲性感染症を引き起こし、ときに髄膜炎や菌血症を伴う肺炎などの侵襲性肺炎球菌感染症（Invasive pneumococcal disease, IPD）を引き起こす³⁾。

IPD 発症予防として、肺炎球菌ワクチン接種が行われている。5歳未満の小児の肺炎球菌ワクチンとしては、2013年4月から沈降7価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV7)が定期接種対象ワクチンとなり、2013年11月に13価(PCV13)、2024年4月から15価(PCV15)、2024年10月には20価(PCV20)に置き換わった^{3,4)}。

一方、成人の肺炎球菌ワクチンとしては、高齢者を対象として2014年10月から23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン(PPSV23)が定期接種対象ワクチンとなった。定期接種の対象者は、

(1)65歳の方

(2)60～64歳で、心臓や腎臓、呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活を極度に制限される方

(3)60～64歳で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

である。ただし、過去にPPSV23の接種を受けたことがある方は対象外であるためご留意いただきたい²⁾。

■引用・参考

1)厚生労働省：令和6年（2024）人口動態統計（確定数）の概況

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei24/index.html>

2)厚生労働省：高齢者の肺炎球菌ワクチン

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/pneumococcus-senior/index.html

3)国立健康危機管理研究機構：IASR Vol.44 2023年1月号

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/44/515/article/010/index.html>

4)厚生労働省：子どもの肺炎球菌ワクチン

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/pneumococcus-child/index.html